

## 2024 全国都市緑化かわさきフェア 基本構想（案）



川崎市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



# 全国都市緑化かわさきフェア 基本構想（案）

## はじめに

- 01 未来の川崎に向けて

## 第1章 川崎だからできること

- 01 多様な層の積み重ねからなる川崎100年の変遷
- 02 「多様性は可能性」
- 03 「豊かな環境をつくる」
- 04 「新たなライフスタイルへ」

## 第2章 かわさきフェアが目指すもの

- 01 かわさきフェアは Green For All でみどりのムーブメントを起こします
- 02 より豊かな環境を川崎らしく未来につないでいくきっかけとなる「かわさきフェア」を開催します
- 03 川崎らしく既存のストックを活用しより豊かな環境を未来につなぐ「きっかけ」の作り方
- 04 川崎がストックする“多様なみどり”を活用するかわさきフェア
- 05 全市的に取り組むかわさきフェア
- 06 かわさきフェア開催に向けたスケジュール

## 第3章 かわさきフェア基本構想

- 01 かわさきフェア開催に向けた基本的事項、スケジュール

## はじめに



## 未来の川崎に向けて

川崎市は令和6年7月に市制100周年を迎えます。

私たちのまち川崎は、約400年前の江戸時代初期に完成した「二ヶ領用水」が人々の生活を潤し、大地をみどりに変え、農業とともに発展してきました。

川崎市では、110年ほど前から臨海部が埋め立てられ工業が発展し、徐々に北部に都市開発がされていく中で、多くのみどりが失われ、みどりと引き換えに利便性の高い都市が生まれてきた100年でした。

しかし、近年では社会状況や市民のライフスタイルの変化にともない、暮らしの中にみどりを取り入れる動きが広がるなど、みどりの価値が大きく変わろうとしています。

また、川崎の持続的な発展を目指すうえでは、積極的にSDGs※1達成に寄与する取組を進めていく必要があり、この取組においてもみどりの果たす役割はとても重要です。

これまでの川崎の100年を振り返り、これからの川崎をどのようなまちにしていくのか？ 川崎だからできることって何なのか？

そして「みどり※2」が持つ力を使って、川崎らしく、次の100年により豊かな環境をどうつないでいくのか？

市民の皆さんと一緒に考え、行動する「きっかけ」とするため、「全国都市緑化フェア」の本市開催を目指します。



全国都市緑化  
フェアって何？

※1 「2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年～2030年までの国際目標。」  
「Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標」の略。

※2 本市の緑化フェアでは、「みどり」を社会や市民生活におけるみどりがもたらす効果・効用なども含めた幅広い視点で捉えるものとします。



## 第1章 川崎だからできること



### 多様な層の積み重ねからなる川崎100年の変遷

#### ●江戸時代から川崎市誕生前の暮らしぶり

- ・東海道川崎宿、多摩川の渡し場の賑わい。
- ・江戸の商品経済の発展とともに、農・魚村の特産物で商業も発達。
- ・多摩川の水害や水不足、ニヶ領用水の恩恵。
- ・江戸後期から川崎大師は庶民の行楽で賑わう。
- ・明治末期から京浜工業地帯が発達、働き場となり、国内外から人口流入。
- ・工業化による農村、漁村への影響、公害の発生。
- ・明治初期、新橋―横浜間の鉄道開通。各鉄道の発展と共に街も大きく変化。
- ・大正13（1924）年・「川崎市」誕生。

#### ●川崎市発展のあゆみ、戦中戦後、高度経済成長

- ・戦中は軍需工業都市に一変し、多くの勤労者が流入。
- ・臨海部では戦後埋立が進展。日本最大の石油化学コンビナート地帯の一翼を形成。労働者の人口流入が続き、公害問題も社会問題に。
- ・丘陵部では、鉄道開発と大規模なニュータウン開発が進み、ベッドタウンとして人口流入が続く。

#### ●産業構造変化による再開発、続く市の発展

- ・1970年代以降、工場移転や研究開発事業へ転換する企業の増加。
- ・工場跡地等の大規模な再開発が進み、事業、住宅地、学校などへ、新たな土地利用の変化がおき、現在も人口流入が続く。
- ・国から「SDGs未来都市」に選定。
- ・脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」の行動開始。

#### 未来の川崎に向けて

これまでの100年で「多様性」を育みながら、経済成長とともに「環境問題」に取り組み、利便性の高さゆえに「人のつながり」や「自然環境」を大事にしてきた川崎だからできることをかわさきフェアを契機に始めよう。

### 市民活動



まちづくり活動



多文化共生



若者文化

### 文化



川崎大師



地域催事

### 産業

京浜工業地帯の発達

国内最大の石油化学コンビナート



工業地域のスモッグ



工場夜景



EVごみ収集車



研究開発都市／殿町国際戦略拠点

キングスカイフロント

### 歴史



橋本官衙遺跡群



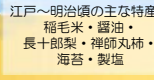
加瀬山（夢見ヶ崎動物公園）



東海道川崎宿



ニヶ領用水

江戸～明治頃の主な特産品  
稲毛米・醤油・長十郎梨・禅師丸柿・海苔・製塩

久地円筒分水

### 自然環境



多摩丘陵・多摩川・崖線海進



多摩丘陵



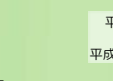
農村環境

昭和15（1940）年「富士見公園」の開園  
市内初の都市公園

昭和16（1941）年「生田緑地」都市計画決定



昭和51（1976）年初の緑地保全地区「久末緑地保全地区」

平成7（1995）年～緑の基本計画  
平成30（2018）年改定

市民100万本植樹運動事業



かわさき里山コラボ事業

#### 川崎だからできることって何？

## 第1章 川崎だからできること



### 『多様性は可能性』

川崎は、まちの発展に伴い多くの人が移り住むようになり、様々な国の方が何世代にもわたり生活するとともに、東京・横浜という大都市に隣接する利便性もあり、現在でも人口が増え続けています。

こうした多くの人々が暮らす川崎では、多様な文化や価値観を上手に取り入れる「寛容さ」で、独自の「多様性」が育まれてきました。

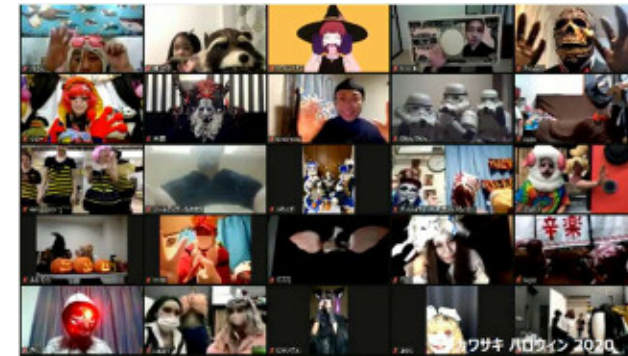
この「多様性」と「寛容さ」にあふれた川崎だからこそ、今でも新たな文化が育まれ、100年前から今日まで「多様性」にあふれるまちとして発展し続けています。

川崎には固定的なイメージはなく、「多様性にあふれたまち」だから、これからもたくさんの新しい文化が生まれ、発展し続ける「可能性にあふれたまち」です。

#### 多様性に富んだ魅力と

常に変化を受け入れる寛容さを持つ川崎だから

新たな文化を生み出すことができる





## 第1章 川崎だからできること



# 『 豊かな環境をつくる 』

近年の夏の猛暑日に加え、令和元年東日本台風による被害が生じるなど、全国でも自然災害が増え、原因の一つに「気候変動（地球温暖化）」が挙げられています。

地球規模で気候変動対策等が課題となっている中、川崎が様々な課題にこれまで市民、事業者などと一緒に取り組んできた歴史と、持続可能な社会の実現に向けた取組が国から評価され、2019年7月には「SDGs未来都市」に選定されています。

また、2020年11月には、脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」を策定し、2050年の脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。

川崎は、この100年の歴史の中で、公害対策や緑地の保全、生活環境の向上など、様々な環境問題を市民、事業者などと協力して取り組んできた実績があり、より豊かな環境を未来につないでいく力を持っています。

みんなで環境問題に取り組んできた川崎だから

豊かな環境をつくることができる



## 第1章 川崎だからできること



# 『 新たなライフスタイルへ 』

2020年は新型コロナウイルスが世界的な大流行となり、現在も日々、社会状況が急速に変化するなど、先が見えない不安に直面している中で、人々の暮らしには暮らし様式の変化が起きています。

また、サイバー空間（仮想）とフィジカル空間（現実）が高度に融合する「Society 5.0※4」が提唱されるなど、社会や暮らし環境に大きな変化が起こり、今までのライフスタイルを見直す時期が来ています。

川崎は、その利便性の高さゆえに希薄になりやすい人と人のつながりを大事にし、様々なコミュニティをつくってきました。また、都市部であるからこそ、多摩丘陵や多摩川など豊かな自然環境を、市民協働により維持・保全に取り組むとともに、都市農業の振興にも努めてきました。

こうした経験や資源を活かし、川崎ならではの人と自然が共生する持続可能な「懐かしい未来」※5を考えながら、新しいライフスタイルを生み出していきます。

利便性の高さゆえに

人のつながりや自然環境を大事にしてきた川崎だから

新たなライフスタイルを生むことができる



※4 狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会として、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会

※5 地球の有限性を前提に、単純に過去に戻るということではなく、これまでの経験値を生かしながら未来を構想する考え方



## 第2章 かわさきフェアが目指すもの

## かわさきフェアは、Green For All! でみどりのムーブメントを起こします

みどりは、すべての人に等しく存在し、まちづくりや生活のすべての場面で効果を発揮します。  
みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組を推進します。





## 第2章 かわさきフェアが目指すもの

より豊かな環境を川崎らしく 未来につないでいくきっかけとなる「かわさきフェア」を開催します





## 第2章 かわさきフェアが目指すもの

### 川崎らしく既存のストックを活用し より豊かな環境を未来につなぐ「きっかけ」のつくり方

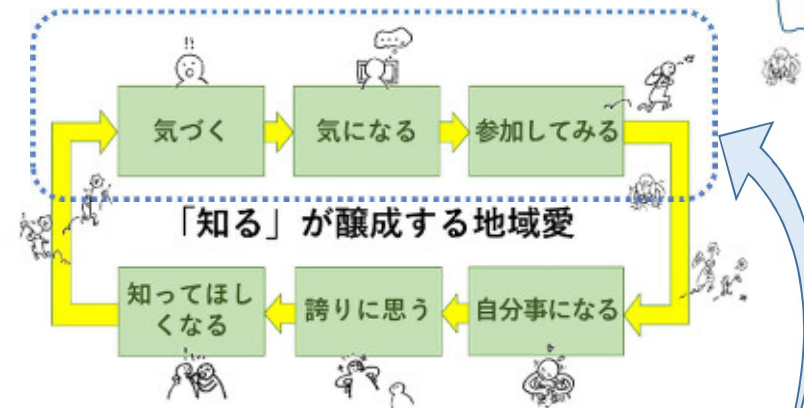
#### ★きっかけづくり＝「知る」機会の提供

- 川崎市民が見過ごしている「川崎」を知る機会を提供することで、市民の地域愛を醸成し、一人一人が川崎について周囲に伝えたいような取組を検討します。

#### ★「みどり」による取組の拡張

- すべての人に等しく存在し、あらゆる場面で効果を発揮する「みどり」の力を上手に活用することで、全市的な展開として取組を推進します。

体感する「知る」のプロセス



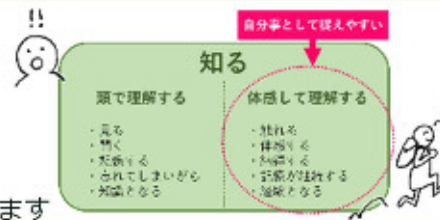
地域愛の醸成を促す「みどりのムーブメント」を推進し、かわさきフェア終了後も継続する取組とします。

#### 「知る」の細分化

一言に「知る」と言っても、知るには様々な形態があります。

- ・頭で理解する「知る」
- ・体感して経験として理解する「知る」

かわさきフェアでは、この2つの「知る」により、「みどり」を上手に活用し、より後者の体感する「知る」を提供します



### かわさきフェアのレガシー

まちづくりや生活に「みどり」を取り入れる文化が生まれる

地域愛が醸成される

かわさきフェアのレガシー、それはこのフェアを契機に醸成された当事者意識・地域（川崎）愛を持った人財。100年後にこの人財が、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。



## 第2章 かわさきフェアが目指すもの

### 川崎がストックする“多様なみどり”を活用する かわさきフェア



#### 樹林地

【保全した樹林地等：  
約245ha(令和2年3月現在)】



川崎方式による樹林保全  
緑地総合評価と、土地所  
有者の協力により保全の  
拡充がなされています。

多様な主体連携による取組  
民間企業・教育機関等によ  
る里山の保全活動や「大学  
連携」が進んでいます。



#### 身近な公園の課題

社会状況の変化によるニーズ  
の対応や、老朽化対策へ、市  
民参加の取組が進められてい  
ます。



#### 公園緑地

【市民一人あたりの公園面積：4.95㎡  
(令和2年3月現在)】

##### ●川崎市の三大総合公園

##### 生田緑地

まとまった自然と個性的施設による総合  
公園。中央広場、西口展望広場等の整備  
が進められました。



##### 等々力緑地

大規模スポーツ施設群が特徴の総合公園。  
21世紀の森や正面広場、陸上競技場、野  
球場等の再編整備が進められました。



##### 富士見公園

都心にふさわしい総合公園としての再生。  
スポーツ、文化交流拠点を強化する川崎富  
士見球技場の再整備がなされました。



#### 農地

【農地面積：約547ha(令和2年5月現在)】



「農のある風景」の保全  
黒川、早野、岡上地区では、  
農業施策と連携した里地・里  
山保全を推進しています。



農への理解を深める取組  
農とのふれあいの場の形成と、  
農業や農産物への理解を深める  
取組を推進しています。



#### 中小河川的环境整備

二ヶ領用水をはじめ、  
地域と連携した水辺に  
親しめる環境整備が進  
められています。



#### 河川



「川崎市多摩川新多摩川プラン」  
「ふるさとの川・多摩川」の歴史的・文化  
的資源、環境資源を最大限に活かした賑わ  
いの場の創出を目指した取組がなされてい  
ます。



#### まちのみどり

【地域緑化推進地区：27地区に拡大  
(令和2年4月現在)】



事業所緑化の貢献



地域緑化推進地区の普及促進

地域の自主的  
な緑化の取組  
となっています。



#### 臨海

【事業所敷地10%以上の緑化推進目標とした協定締結推進：約130ha緑地創出

(令和2年3月現在)】



##### 川崎港緑化基本計画

川崎港湾緑地の目指すべき姿に向  
け策定され、自然を感じ、魅力的  
なロケーションを楽しめる空間配  
置の実現を目指しています。



##### 臨海部の公園整備

東扇島東公園：人工海浜を有し、  
「東京湾臨海部基幹的防災拠点」  
としても期待されています。  
東扇島中公園：川崎マリエンと隣  
接したみどりの拠点として活用さ  
れています。



## 第2章 かわさきフェアが目指すもの

### 全市的に取り組むかわさきフェア

#### ★川崎の多様な「みどり」を知り、活かす活動を全市的に展開

- 地域ごとに様々な顔をもつ川崎の多様なみどりを活用して、お互いの特色を知り、交流を育み、みんなで川崎の魅力と価値を高めるきっかけと するため、**全市的に展開**します。

#### ★“川崎のみどり”を「富士見公園」に凝縮し、各区の特色が融合した様々な可能性を秘めた新たな「みどり」を提案します。

- フェア開催期間中、公式行催事、協働プログラム、情報発信等の拠点として、川崎の玄関口に存在し発信力があり、市民の「きっかけ・しくみづくり」にふさわしい場として、富士見公園周辺で新たなみどりを提案します。



#### ★かわさきフェアをきっかけに「みどりのムーブメント」を全市的・継続的に展開





## 第3章 かわさきフェア基本構想



### かわさきフェア開催に向けた基本的事項

|               |                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 基本的な考え方    | より豊かな環境を川崎らしく 未来に繋いでいくきっかけとなる「かわさきフェア」<br>・みどりが持つ力を、未来の川崎に向けて、みんなが暮らしの中で上手に活用する取組を推進します。<br>・生活の様々な要素や環境と川崎ならではの多様なみどりと人を結びつけることで、フェア終了後も続くみどりのムーブメントを推進します。<br>・フェアのレガシーとなる醸成された地域愛を持った人財が、100年後に向け、川崎らしくより豊かな環境をつないでいきます。 |
| 2. 主催者等       | 主催者 川崎市、公益財団法人都市緑化機構 / 提唱 国土交通省                                                                                                                                                                                             |
| 3. 開催期間       | 令和6（2024）年 の開催とします。                                                                                                                                                                                                         |
| 4. 会場         | 川崎の多様なみどりを知り、活かす活動を全市的に展開します。フェア開催期間中の公式行催事、協働プログラム、情報発信等の拠点を富士見公園とします。                                                                                                                                                     |
| 5. 入場者規模      | 会場条件、事業内容、交通対策、新型コロナウイルス感染症への対応等を勘案して基本計画で設定します。                                                                                                                                                                            |
| 6. 入場料設定      | 基本計画以降、設定します。（有料プログラムについても検討します。）                                                                                                                                                                                           |
| 7. 愛称・シンボルマーク | 基本計画以降、開催テーマを象徴し、川崎市らしく、市民に親しまれるものを設定します。                                                                                                                                                                                   |
| 8. 開催事業費      | 基本計画策定時に概算事業費を算定します。                                                                                                                                                                                                        |

### 今後のスケジュール

- ◆ 「みどりのムーブメント」の取組を多様な市民・企業とともに全市を挙げてに推進するかわさきフェアを目指します
- ◆ フェア終了後も取組を継続することで育まれた人財が、川崎らしく、より豊かな環境を未来につないでいきます
- ◆ 今後開催に向けて、広く各界からの意見や市民意見を取り入れながら、詳細を決定し、可能なものから順次取り組んでいきます

|       |         | 開催4年前<br>R2（2020）年度 | 開催3年前<br>R3（2021）年度       | 開催2年前<br>R4（2022）年度 | 開催1年前<br>R5（2023）年度 | 開催年<br>R6（2024）年度 |
|-------|---------|---------------------|---------------------------|---------------------|---------------------|-------------------|
| 事業運営  | 計画策定等   | 基本構想                | 各事業の取組<br>※可能なものから随時取組に着手 |                     |                     |                   |
|       | 実施体制    | ◆懇談会設置              | ★国との協議<br>◆基本計画策定委員会設置    | ◆実行委員会設立・事務局設置      |                     |                   |
|       | 会場整備等   |                     | 設計・整備                     |                     |                     |                   |
| 全国の動き | フェア開催都市 | 広島県・広島市<br>他22市町村   | 熊本市                       | 北海道・恵庭市             | 仙台市                 | 川崎市（予定）           |

# Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市